

図書館で行う 「みんなのがん教室」

彦田 かな子 ●がん哲学外来メディカルカフェ シャチホコ記念 代表



「みんなのがん教室」の様子

地域医療貢献のポイント

公共空間である図書館を拠点に、専門的ながん情報を平易に提供することで、住民の「がん情報リテラシー」を向上させる。多世代交流を通じた正しい知識の共有と相談先の周知は、孤立を防止し、地域全体での健康寿命延伸と共生社会の実現に寄与するものである。

1. 背景と目的

現代社会において、がんは身近な病気である一方、依然として誤解や偏見、情報の過不足による不安や孤立が生じやすい現状がある。本活動では、地域の誰もが気軽に立ち寄れる図書館を拠点とし、2022年3月より毎月1回の公開講座「みんなのがん教室」を継続している。その目的は、がんを「怖い病気」として遠ざけるのではなく、正しい知識と支え合いを学ぶ機会を提供することにある。子どもから高齢者まで多様な住民が、根拠に基づく医療情報に触れ、自らの健康を守り、病と共に生きる人々を自然に支えられる地域基盤の形成を目指している。

2. 取り組みの方法

医療機関や専門家と連携し、講義30分と

交流会60分を組み合わせた参加型講座を年間12回実施する。内容は、①がんの基礎(早期発見や療養の見通し)、②予防と検診の役割、③共に生きるための理解(偏見防止や職場・学校での関わり、相談先)の3本柱で構成される。

具体的な工夫として、クイズやカードゲーム(事実・考え・気持ち)、対話型アクティビティを導入し、多様な参加者が互いに学びを深められる仕組みを整えている。単なる知識伝達にとどまらず、具体的な相談先を案内することで、「知る・考える・行動につなげる」力を促す。併せて、教材や評価手法の標準化を進め、図書館共催による持続可能な運営モデルの確立を図る。

3. 期待される成果

年間延べ360名の参加と高い事後アンケート回収率(70%以上)を見込んでおり、結果から「理解が深まった点」や「相談先の認知」を可視化し、適切な受診判断等の行動変容を促す成果が期待される。これにより、検診・受診の決意や適切な受診判断といった具体的な行動変容を促す直接的な成果が期待される。

住民ニーズに応じた多角的な展開を行い、テーマをグリーフケアや療養と仕事の両立、家族への支え等にとどまることなく、さらに幅広い世代の参加を促進する。また、実施結果を要約した報告(図書館内掲示・配布)を作成し、他館や学校、地域団体とノウハウを共有することで、がんに対する偏見が抑制され、地域全体で健康寿命の延伸と、地域包括ケアを支える住民意識の醸成が達成されることが期待される。